

第3期宮城県図書館振興基本計画

に係る令和3年度評価

令和4年3月

宮城県図書館

目 次

1	第3期宮城県図書館振興基本計画の点検及び評価について	1
	趣旨	
	第3期宮城県図書館振興基本計画における進行管理	1
	令和3年度における点検について	1
	目標指標の達成率の算出について	1
	自己評価の判定区分について	2
	宮城県図書館協議会による外部評価	2
2	第3期宮城県図書館振興基本計画の構成について	3
3	点検・評価結果について	4
	施策の方向性 1	5
	施策の方向性 2	7
	施策の方向性 3	9
	施策の方向性 4	11
	施策の方向性 5	13
	施策の方向性 6	15
	施策の方向性 7	17
	施策の方向性 8	19
	施策の方向性 9	21
	施策の方向性 10	23
	施策の方向性 11	25
4	令和3年度の点検及び評価の総括	27

1 第3期宮城県図書館振興基本計画の点検及び評価について

趣旨

図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3の規定により、図書館は、図書館の運営の状況について評価を行うとともにその結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならないこととされています。また、図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）の規定に基づき、運営の状況に関する点検及び評価を行うよう努めなければならないこととされています。

そのため、上記の法律等に基づき、平成30年度以降における宮城県図書館（以下「当館」という。）が実施する事業に係る点検及び評価を実施するものとします。

第3期宮城県図書館振興基本計画における進行管理

第3期宮城県図書館振興基本計画を着実に推進するために施策に掲げた取組の実施状況を把握し、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）のPDCAサイクルによる進行管理を行います。また、運営の状況について当館による自己評価及び宮城県図書館協議会による外部評価を行い、その結果に基づいて運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めます。

令和3年度における点検について

点検については、事業毎の点検を行い、施策の方向性毎に進捗状況等を明らかにするとともに課題の分析や今後の対応の方向性を示すこととしました。

なお、今回の報告については、3月31日現在の実績等を踏まえて作成しています。

目標指標の達成率の算出について

● それぞれ施策毎に目標指標等を次のストック型とフロー型に分類し、対応する計算式により達成率を算出した。

- ・ ストック型：事業活動に伴う成果を累積して把握する指標
(実績値－初期値) / (目標値－初期値)
- ・ フロー型：事業活動に伴う成果を単年度ごとに把握する指標
実績値 / 目標値

※ 目標値を下回ることを目標とする指標の場合などはストック型を準用して算出

自己評価の判定区分について

施策の方向性を構成する事業の必要性，有効性，効率性を考慮し，目標指標等の達成状況，社会経済情勢，事業の実績及び成果等から見て，次のとおり判断しました。

- ・ 順 調：成果が十分にあり，進捗状況が順調であると判断されるもの。
- ・ 概 ね 順 調：成果がある程度あり，進捗状況が概ね順調であると判断されるもの。
- ・ やや遅れている：成果があまりなく，進捗状況がやや遅れていると判断されるもの。
- ・ 遅れている：成果がなく，進捗状況が遅れていると判断されるもの。

宮城県図書館協議会による外部評価

今回の宮城県図書館協議会において，当館が作成した最終自己評価を報告した上で評価を決定します。

2 第3期宮城県図書館振興基本計画の構成について

基本方針

県内全域の図書館間ネットワークのより一層の連携・強化に努め、図書館サービスの向上を図ります。また、県民の知る権利を保障し、県民誰もが生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる環境づくりを目指します。

目標

1

宮城県図書館を中核とした市町村図書館等とのネットワーク体制の充実を図るとともに、全県的な図書館サービスの質的向上に努めます。

2

県民のニーズや社会の要請に応えるための充実した図書館サービスを提供します。

3

図書館がその機能を十分に発揮するための資料・施設・職員の充実を図ります。

4

ふるさと宮城に関する資料の収集・保存に努めるとともに、東日本大震災の記録を永く後世に伝えるための取組を行います。

施策の方向性

1

市町村図書館等との連携強化及び支援の充実を図ります。

2

県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り、効果的な研修を実施します。

3

学校図書館との連携を推進するとともに、支援の充実を図ります。

4

子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。

5

多様な資料・情報の提供に努めるとともに、県民の課題解決を支援する図書館を目指します。

6

ボランティアの活躍の場を創り、その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに、ボランティア活動を支援します。

7

公平かつ長期的な視点に立ち、県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに、適正に整理、保存し、有効活用を図ります。

8

安全安心な施設の維持に努め、県民が利用しやすい環境整備を推進します。

9

組織運営の強化に取り組むとともに、創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。

10

宮城の郷土資料を後世に伝えるため、収集・保存や修復を行うとともに、利活用の促進を図ります。

11

東日本大震災の記録を収集し、永く後世に引き継ぐための取組を行います。

3 点検・評価結果について

施策の方向性		自己評価
1	市町村図書館等との連携強化及び支援充実を図ります。	やや遅れている
2	県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り，効果的な研修を実施します。	順調
3	学校図書館との連携を推進するとともに，支援の充実を図ります。	概ね順調
4	子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。	やや遅れている
5	多様な資料・情報の提供に努めるとともに，県民の課題解決を支援する図書館を目指します。	概ね順調
6	ボランティアの活躍の場を創り，その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに，ボランティア活動を支援します。	概ね順調
7	公平かつ長期的な視点に立ち，県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに，適正に整理，保存し，有効活用を図ります。	概ね順調
8	安全安心な施設の維持に努め，県民が利用しやすい環境整備を推進します。	概ね順調
9	組織運営の強化に取り組むとともに，創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。	概ね順調
10	宮城の郷土資料を後世に伝えるため，収集・保存や修復を行うとともに，利活用の促進を図ります。	順調
11	東日本大震災の記録を収集し，永く後世に引き継ぐための取組を行います。	順調

第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

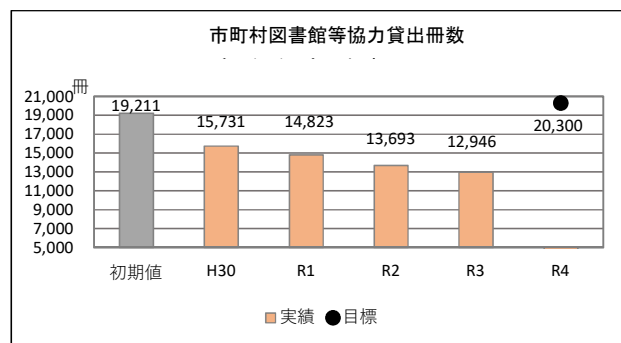
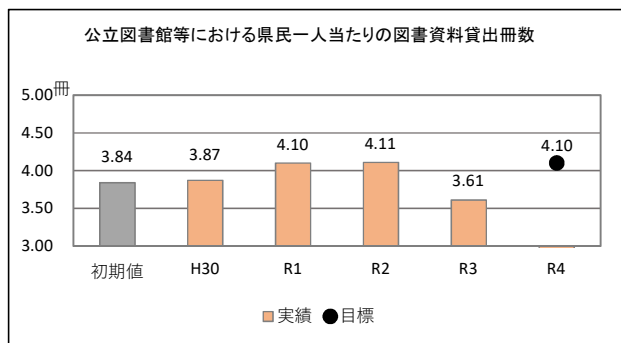
評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	1 市町村図書館等との連携強化及び支援充実を図ります。
--------	-----------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)を利活用し、当館から市町村図書館等への協力貸出、当館・市町村図書館等間の相互貸借及び情報交換等を行います。 市町村図書館等を訪問し、各館の現状や課題を把握し、情報の提供や収集及び運営相談、助言等を行います。 市町村図書館等の住民サービスと利用促進に繋げるため、当館から直接館外貸出を受けた資料を、市町村図書館等を通じて返却できるようにし、当館から遠隔地等に在住する県民の利便性の向上を図ります。 被災した図書館等の地域資料を再整備するため、「みやぎデジタルライブラリー」について継続して取り組み、必要な地域資料の収集と再配布を行います。
------	---

目標指標	※「公立図書館等における県民一人あたりの図書資料貸出冊数」の実績値については、「宮城県内公共図書館・公民館図書室等現状調査」の数値を用いているため、調査時期の関係上、前年度（R2年度）実績値を計上する。			
------	---	--	--	--

	初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和3年度）	達成率
公立図書館等における県民一人あたりの図書資料貸出冊数	3.84冊	4.10冊	3.61冊	88.0% 【フロー型】
市町村図書館等協力貸出冊数	19,211冊	20,300冊	12,946冊	63.8% 【フロー型】



構成事業の実績	事業名	実績
図書館ネットワークシステム運営事業		<ul style="list-style-type: none"> 公共図書館21市町31館、公民館図書室等読書施設14市町村15室(全市町村)が加入し、本の貸出依頼や諸連絡、情報交換等に活用した。 図書館情報ネットワークシステムについて、保守業者との定例打合せをこれまで6回実施し、図書館システムの安定した運営を維持した。
協力業務運営事業		<ul style="list-style-type: none"> 県内市町村図書館等への協力貸出を12,946冊行い、当館資料の活用を図った。
公立図書館等連絡会議		<ul style="list-style-type: none"> 今年度は新型コロナウイルス感染症の関係もあり、第1回は書面開催となった。第2回は、初めてZoomを用いて、Webと会場のハイブリッドで開催し、公立図書館等間における連携協力や情報交換を図った。また、第3回においても講師を迎えた形でのハイブリッド開催を実現した。
巡回相談		<ul style="list-style-type: none"> 前期は4月・5月に市町村図書館等35館のうち34館を巡回し、情報提供や運営相談を実施した。残る1館はコロナ禍で利用を町民のみに限っていたため、MY-NETを用いて資料を提供して情報交換を行った。 後期は10月に市町村図書館等35館を巡回し、情報提供や運営相談を実施した。
市町村図書館等返却サービス		<ul style="list-style-type: none"> 遠隔地等に在住する県民の利便性の向上を図るため、宮城県図書館の窓口で借りた資料を市町村図書館等で返却することができる制度を実施しており、1,282件5,024冊・点の実績があった。

事業名	実績
被災した市町村図書館等の復興支援	<ul style="list-style-type: none"> 第23回図書館総合展(オンライン開催, 11/1 ~11/30)において, 被災地図書館の復興状況を紹介した。全70ブース出展中18位にあたる575回のページビューがあった。

自己評価	やや遅れている
------	----------------

理由
<ul style="list-style-type: none"> 公立図書館等における県民一人当たりの図書資料貸出冊数について, 昨年度(令和元年度実績値4.11冊)は目標値の4.1冊を達成していたが, 新型コロナウイルス感染症の影響もあり3.61冊と落ち込んだ。 協力貸出冊数についても, 新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少傾向が続いている。令和3年度については前年度(貸出冊数13,693冊)より747冊減少した。 連絡会議, 巡回相談については, 新型コロナウイルス感染症の影響を受け, 一昨年までの事業遂行が難しい状況であったが, 書面開催やZoomを用い研修するなど, 工夫を凝らして成果が残るように努めている。 以上のことから, 計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し, 本施策の方向性の評価は「やや遅れている」と判断する。

課題
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症による影響がいつまで続くのか, 今後も先が見えない状況で事業執行しなければならないこと。また, そのような状況下でも成果が出せるようにしていくことが課題である。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症は, 今後も一定の影響が続くと思われることから, これまでに得られた知見やノウハウを踏まえ事業継続に努めるとともに, 巡回相談のほかオンラインによる助言や情報提供も活用しながら市町村図書館等の活動を支援していく。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響もあるが, 「やや遅れている」とした自己評価は妥当であると判断される。 今後, 市町村図書館の活動がすぐに回復することは難しいので, 市町村の図書館をどのようにサポートして, 全体の底上げをしていけるか考えておいていただきたい。コロナ収束後のイメージを考えておいていただきたい。

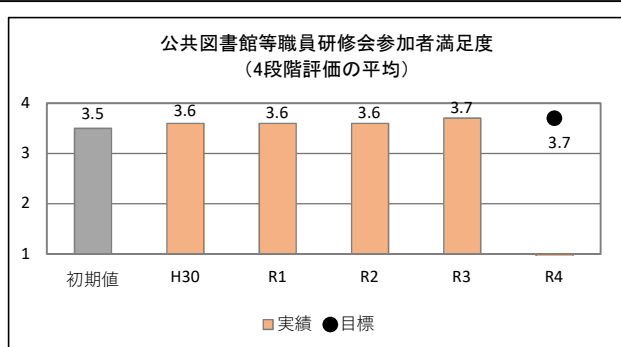
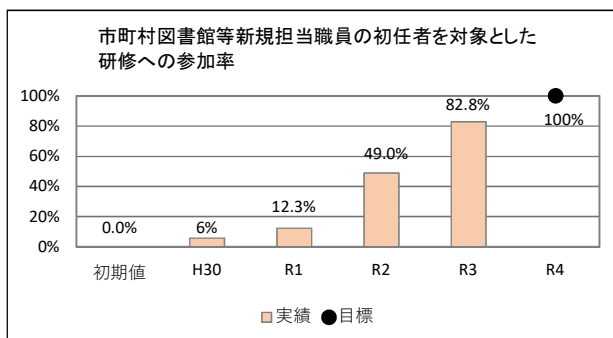
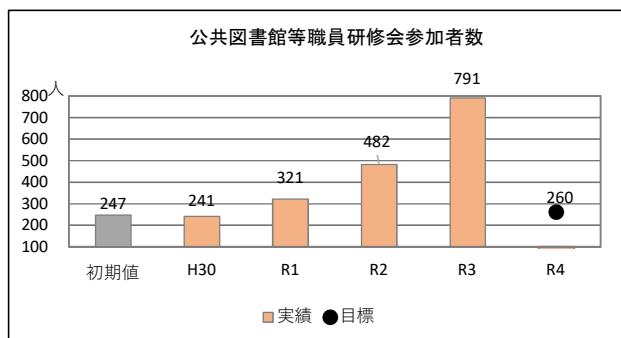
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	2 県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り、効果的な研修を実施します。
--------	--------------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員の業務担当者及び公立小・中学校、県立学校図書館担当者を対象に、図書館担当職員としての基礎的な知識の習得のための機会を設け、業務推進の一助となるよう研修会を実施します。 市町村図書館等が実施する研修会へ当館職員を派遣し、市町村における図書館業務の専門的知識習得と技術力向上を支援します。 図書館界の新たな動向や新しいサービスについて、当館職員が学ぶ機会を確保し、市町村図書館等への支援に生かします。
------	---

目標指標					
		初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和3年度）	達成率
公共図書館等職員研修会参加者数	247人	260人	791人	304.2%	【フロー型】
市町村図書館等新規担当職員の初任者を対象とした研修への参加率	0%	100%	82.8%	82.80%	【ストック型】
公共図書館等職員研修会参加者満足度（4段階評価の平均）	3.5	3.7	3.7	100.0%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
公共図書館等職員研修	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を遠隔研修の形態で4回実施し、知識と技能の習得を図った。受講者数については、延べ791人の参加があった。 参加者アンケートでは、4段階評価で平均3.7の高い評価を得た。
出前講座	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等業務の専門的知識習得と技術力向上を支援するため、7市町の研修会等へ当館職員を8回派遣した（その他新型コロナウイルス感染症の影響により紙上開催となった1町（1回分）に対し、作成した資料を提供した。）。

自己評価

順調

理由

- ・ 公共図書館等職員研修については、新型コロナウイルス感染症の影響で集合形式での研修会開催が難しい状況にあり、動画配信による遠隔研修の形式によって実施している。動画配信とすることで、より多くの参加者が都合の良い時に視聴できるというメリットを最大限生かして、大幅な参加者数の増を図ることができた。公共図書館等職員研修会参加者満足度も、4段階評価で平均3.7の高い評価を得た。
- ・ 初任者層を対象とした研修への参加率は、遠隔研修のメリットを十分生かすことができ、大幅な参加増となっている。
- ・ 出前講座については、例年どおりの実績であり、希望館のニーズに沿った講座を実施している。
- ・ 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は、現時点において「順調」と判断する。

課題

- ・ 公共図書館等職員研修について、動画配信による研修のメリットは大きいですが、一方で研修形態として集合して実技を行うものやグループでの討論などの方法が適切なものもあることから、新型コロナウイルス感染症のリスクに配慮しながら、それぞれの研修の特性を見極めて、ニーズに応じた研修を模索する必要がある。

対応方針

- ・ 新型コロナウイルス感染症の動向も見極めながら、遠隔研修と対面研修のそれぞれのメリットを活かした効果的で魅力ある研修の提供に努める。

協議会委員意見

- ・ 自己評価の理由が十分であり、「順調」とした自己評価は妥当であると判断される。
- ・ 遠隔研修の実施により参加者が増えたことを受け止め、今後は、元の対面研修に、ただ戻るというのではない形式を検討してもらいたい。
- ・ 他館でもオンラインの重要性は増している。職員のほうにもオンラインサービスを使いこなすスキルが求められている。

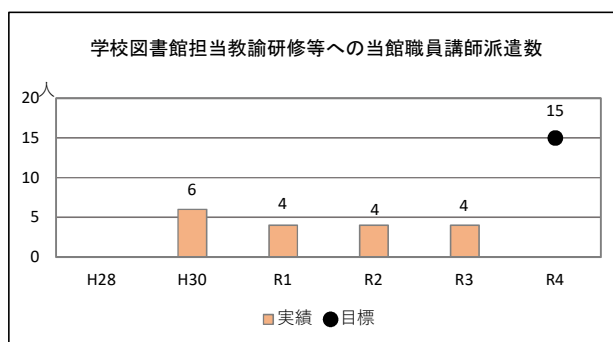
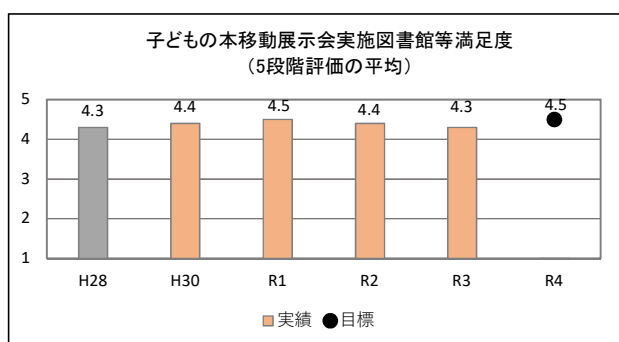
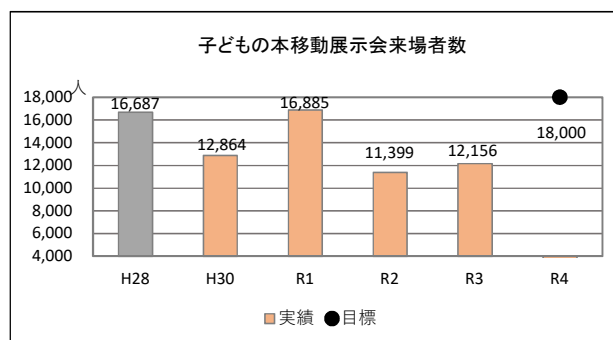
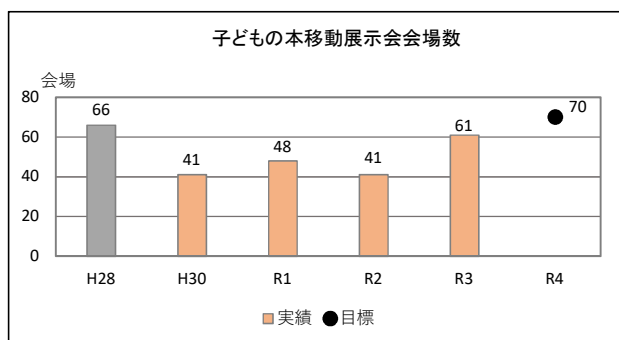
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	3 学校図書館との連携を推進するとともに、支援の充実を図ります。
--------	----------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの本展示会で展示した児童書を貸し出す移動展示会を実施し、児童書のさらなる活用を図ります。 ・ 幅広い内容の本をテーマ別・対象学年別に組んだセット資料を、市町村図書館等を通して小・中学校に貸し出します。 ・ 歴史や文化に親しむ大きな契機とするため、当館が所蔵している貴重資料の複製を県内の高等学校・市町村図書館等に貸し出します。 ・ 高等学校及び支援学校等図書館との連携・協力を推進するため、ニーズを調査し、それに応じた支援事業の実施に向けて検討します。 ・ 学校図書館担当教諭研修等へ当館職員を講師として派遣することにより、学校司書を対象とした研修との相乗効果を図りながら、学校図書館運営を側面から支援します。
------	--

目標指標	初期値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和3年度)	達成率
子どもの本移動展示会会場数	66会場	70会場	61会場	87.1% 【フロー型】
子どもの本移動展示会来場者数	16,687人	18,000人	12,156人	67.5% 【フロー型】
子どもの本移動展示会実施図書館等満足度 (5段階評価の平均)	4.3	4.5	4.3	95.6% 【フロー型】
学校図書館担当教諭研修等への当館職員講師派遣数	—	15人	4人	26.7% 【フロー型】



構成事業の実績	事業名	実績
子どもの本移動展示会		・ 子どもの本展示会での展示を予定していた2020年の新刊児童書200冊を1セットとし、県内市町村図書館や公民館図書室16館へ23セット、小・中学校、特別支援学校45校へ49セットを貸し出した。

事業名	実績
学サボセットの貸出	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等と小・中学校との協力・連携への側面的支援のため、テーマ別、学年別の児童書セットを7市町村8館へ延べ36セットを貸し出した。
複製資料貸出事業	<ul style="list-style-type: none"> 県内の高等学校や市町村図書館公民館延べ22箇所、坤輿万国全図などの複製資料70点を貸し出し、著名な資料や郷土の文化の発信に努めた。
学校図書館運営サポート事業	<ul style="list-style-type: none"> 5月に高等学校図書館研究会総会へ当館職員を講師として2名派遣の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 新たな学校図書館支援として「出前講座」「相互貸借貸出サービス」を施行。 10月高等学校図書館研究会司書部第四ブロック研修会へ講師を派遣し、出前講座及び情報交換を実施(講師2名)。
公共図書館等職員研修(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を遠隔研修の形態で4回実施し、知識と技能の習得を図った。受講者数については、延べ791人の参加があった。 参加者アンケートでは、4段階評価で平均3.7の高い評価を得た。

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの本移動展示会については、各施設ともに新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながらの実施となったが、実施会場数及び来場者数は、前年度より増加した(前年度41会場11,399人)。実施施設の満足度は、目標値をやや下回った。 学校図書館への更なる支援については、検討を重ね、①高等学校図書館研究会との情報交換を行うこと②高等学校を「出前講座」の対象とすること③学校図書館を「相互貸借」の対象とすること等の具体的な支援を打ち出すことができた。 学校図書館担当教諭研修等への当館職員講師派遣数は、目標値の15人に対して派遣数4人と少ないものの公共図書館等職員研修の受講対象者に学校司書等も対象として含めており、知識と技能の習得のサポートは実施している。 公立図書館等における県民一人当たりの図書資料貸出冊数について、昨年度(令和元年度実績値4.11冊)は目標値の4.1冊を達成していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり3.61冊と落ち込んだ。(再掲) 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館運営サポート事業の学校図書館支援について、本年度立案した支援策を実行に移し、推進していく必要がある。また、今回の支援策で完結ではなく、情報交換等を通じて学校のニーズを吸い上げ、さらなる支援策を模索していく。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 上記の支援策が真に学校にとって効果が上がるものとなるよう、支援策を展開しながら関係機関との連携と意思疎通を図っていく。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 高等学校図書館研究会との情報交換の場を、早い段階に調整し実施してほしい。

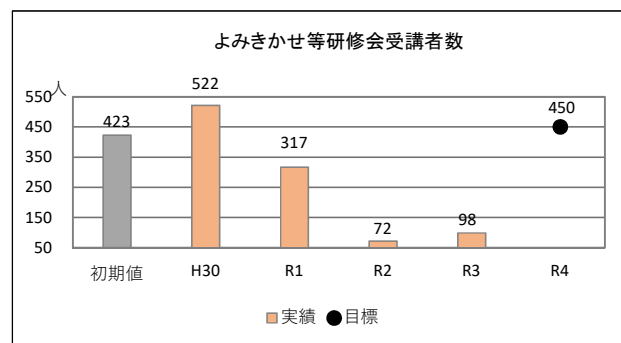
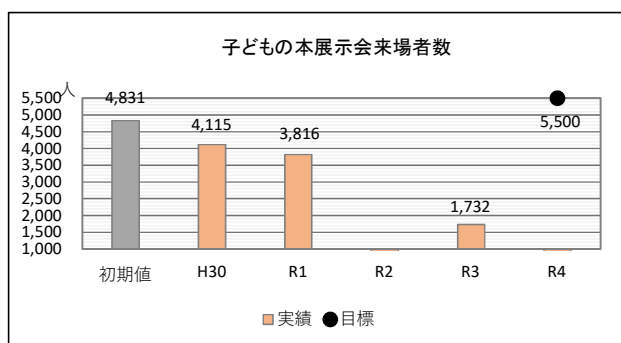
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	4 子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。
--------	---------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書環境や読書活動促進のため、児童書や児童文学賞作品、「小中学生のための読書案内『本のいずみ』」に紹介した資料を展示する「子どもの本展示会」を開催します。 子どもの読書活動を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目的として、おはなし会を行う基本的知識と技能を習得するための研修を実施します。 図書館を身近なものに感じてもらうための夏休み親子ツアーを実施します。 児童資料研究・相談室については、時代のすう勢を再確認しながら、利用のあり方等を検討します。
------	--

目標指標		初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和3年度）	達成率
子どもの本展示会来場者数	延べ4,831人	延べ5,500人	延べ1,732人	31.5%	【フロー型】
よみきかせ等研修会受講者数	延べ423人	延べ450人	延べ98人	21.8%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
子どもの本展示会	<ul style="list-style-type: none"> 次世代を担う子どもたちの読書環境整備や読書活動促進のため、前年出版の児童書約2,000冊とテーマ展示として、2020年児童文学賞受賞作品や小中学生のための読書案内「本のいずみ」で紹介している本の展示を4月22日(木)から5月9日(日)の期間で新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら実施した。
よみきかせ等研修会	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書環境を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目指し、おはなし会を行う際に必要なよみきかせ等の基礎知識と技能の修得を図るため、年間9回の開催で計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置により、3回中止とした。全6回の実施に際しては、新型コロナ感染症拡大防止対策を取りながら実施し、延べ98名が受講した。
夏休みお仕事体験ツアー	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。
学サボセットの貸出（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等と小・中学校との協力・連携への側面的支援のため、テーマ別、学年別の児童書セットを7市町村8館へ延べ36セットを貸し出した。

事業名	実績
複製資料貸出事業（再掲）	・ 県内の高等学校や市町村図書館公民館延べ22箇所、坤輿万国全図などの複製資料70点を貸し出し、著名な資料や郷土の文化の発信に努めた。
子どもの本移動展示会（再掲）	・ 子どもの本展示会での展示を予定していた2020年の新刊児童書200冊を1セットとし、県内市町村図書館や公民館図書室16館へ23セット、小・中学校、特別支援学校45校へ49セットを貸し出した。

自己評価	やや遅れている
------	---------

理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの本展示会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら開催することができた（令和2年度は開催中止。）。対策として、会場出入口で手指のアルコール消毒や短時間での利用に協力を求めたこと、会場内にイス・ベンチ等、座って本を読める環境を設けなかったこともあり、入場者は令和元年度と比較して大幅に減少したが、利用者からは、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置期間での開催に一定の理解をいただいた。 ・ よみかせ等研修会については、今年度年間9回開催で計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により3回中止とした。実施した6回の受講者は、98名となったが、受講者からは高い満足度が寄せられた。 ・ 夏休みお仕事体験ツアーは、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった。 ・ 子どもの本移動展示会については、各施設ともに新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながらの実施となったが、実施会場数及び来場者数は、前年度より増加した（前年度41会場11,399人）。実施施設の満足度は、目標値をやや下回った。（再掲） ・ 以上のことから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業も多く、本施策の方向性の評価は「やや遅れている」と判断する。
----	--

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童資料研究・相談室の利用促進について、ホームページへの掲載、県内市町村教育委員会・県内大学等に広報を行っているが、利用されていない状況が続いている。 ・ 「夏休みお仕事体験ツアー」のようなイベントについては、今後は実地開催だけでなく、新たな形態での開催を模索する必要がある。
----	---

対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童資料研究・相談室の利用のあり方については、根本的な措置を要する時期に来ていることから、関係機関へのニーズ調査及び開設している自治体への状況調査を実施し、利用のあり方について検討する。 ・ 「夏休みお仕事体験ツアー」については、新たな形態での開催に向けて調査研究をする。
------	---

協議会委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、「やや遅れている」とした自己評価は妥当であると判断される。 ・ 県観光課が作成した観光パンフレットやリーフレットも子供たちに有益だと感じており、県内市町村の魅力が紹介されていることから、当該パンフレット等を子ども図書室のどこかに置いて良いのではないかと。
---------	--

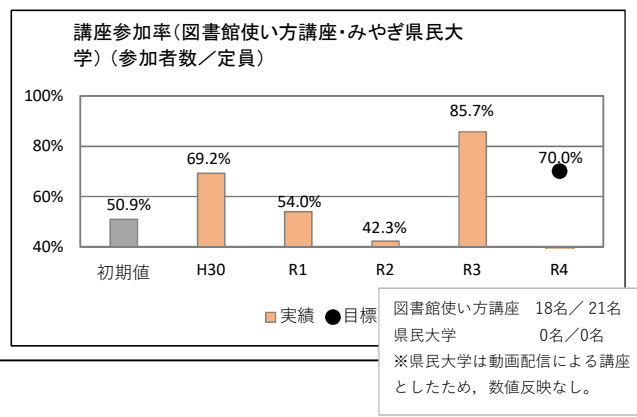
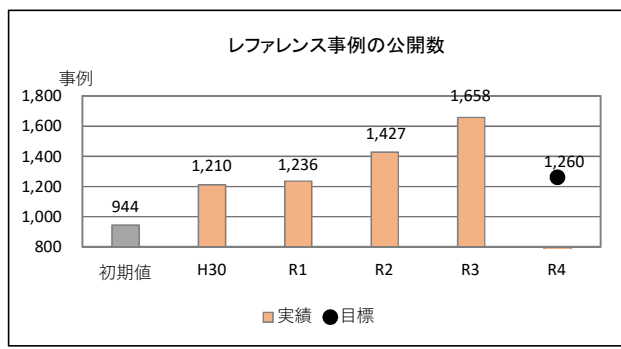
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	5 多様な資料・情報の提供に努めるとともに、県民の課題解決を支援する図書館を目指します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス事例の公開や、レファレンス協同データベースを活用し、付加価値の高い情報発信を行います。 パスファインダーを作成して配布するとともに、ホームページに公開します。 資料検索端末やデータベース等の講習を実施し、利用者が自身で課題解決できるようサポートします。 県民の生涯学習支援の一環として、より多くの学習機会を提供するために、当館所蔵資料を活用した「みやぎ県民大学」等を実施します。 視覚障がい者や目で字を読むことが困難な方々に、視覚障害者情報総合ネットワーク「サビエ」を活用して、点字やデジータ等の情報を提供し、サービスの充実を図ります。 宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)を更新し、よりわかりやすく、利用しやすいホームページの作成を目指し、利便性の向上を図ります。 県民の課題解決支援のための各種講座やイベント等について、ホームページやSNS、新聞等を活用し、常に最新の情報を提供します。
------	---

目標指標				
	初期値(平成28年度)	目標値(令和4年度)	実績値(令和3年度)	達成率
レファレンス事例の公開累積数 (初期値との差)	944事例	1,260事例	1,658事例	
講座参加率(図書館使い方講座・みやぎ県民大学) (参加者数/定員)	50.9%	70.0%	85.7%	225.9% 【ストック型】 122.4% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
レファレンス事例の公開	<ul style="list-style-type: none"> 21,743件の調査相談を実施した。レファレンス協同データベースに、公開可能なものをレファレンス事例として231件登録した。公開事例は累計で1,658件となった。
パスファインダーの作成・公開	<ul style="list-style-type: none"> 調べ方案内(パスファインダー)について、新たに3件の作成と5件の改訂を行い、配布するとともにホームページにも公開した。
図書館使い方講座	<ul style="list-style-type: none"> データベース講習会として、①使ってみよう！ジャパンナレッジ(辞書・事典の検索データベース) ②使ってみよう！新聞記事データベース ③使ってみよう！国立国会図書館デジタルコレクション ④使ってみよう！叡智の柱WEB ⑤D1-law.com(法情報総合データベース)の5講座計10回を計画し8回実施した(ほか2回は新型コロナウイルス感染症対策のため中止)。 ⑥本の探し方講座5回を計画し3回実施した(ほか2回は新型コロナウイルス感染症対策のため中止)。 6種11回の講座合計21名の定員に対して合計18名の参加があった。
図書館見学ツアー	<ul style="list-style-type: none"> 毎月第3土曜日に開催し、延べ66名の参加があった。 毎回参加者にアンケートを依頼しているが、「普段見ることのできない場所を見ることができて良かった。」などの好意的な反応が多かった。

事業名	実績
みやぎ県民大学	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい動画配信(YouTube)による講座とし、合計4講座を12～3月にかけて配信し、1,700回以上視聴された。
ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> 災害復旧工事及び蔵書点検のため、開催日程を再設定して令和3年12月11日に実施した。パトラー5名、オーディエンス18名の参加があった。新しい本との出会いの一助となることで、県民の図書館への関心を高め、利用促進を図った。
サピエ図書館サービス	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい者や目で字を読むことが困難な方々に、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」を活用して点字やDAISY資料等の情報を提供した。今年度は1件の利用があった。 前年度に引き続きDAISY資料の製作を進めており、国立国会図書館の「視覚障害者専用データ送信サービス」に登録することで、DAISYデータを全国に提供する体制を整えた。 「視覚障害者専用データ送信サービス」の受信可能館となり、全国の図書館等の作成したデータをダウンロードして視覚障害者等に提供しうる体制を整えた。
「ことばのうみ」発行	<ul style="list-style-type: none"> 7月(69号)は、巻頭エッセイは有限会社荒蝦夷代表取締役・編集者土方正志氏、特集は「東日本大震災から10年 宮城県図書館のこれまでとこれから」とした。 10月(70号)は、巻頭エッセイは宮城県図書館長宮原賢一氏、特集は「もっと知りたい！蔵書点検」とした。 1月(71号)は、巻頭エッセイは未来屋書店石巻店恵比志奈緒氏、特集は「…読んでから見るか？見てから読むか？宮城県ゆかりの映画・原作をご紹介します」とした。 各号8,000部発行し、県内外の利用者に当館の活動の広報を行った。
情報エントランスみやぎ	<ul style="list-style-type: none"> 1階エントランスを活用し、宮城県や他の外部機関と連携してパネル展示を行い、県民にさまざまな情報を提供している。12機関13回の利用実績があった。

自己評価	概ね順調
------	------

理由	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス事例の公開数は順調に伸び、目標値を上回っている。 「使ってみよう！叡智の杜WEB」等の図書館使い方講座は、新型コロナウイルスの影響により、実施回数は少なかったが参加数は概ね定員に達している(振替開催を含む。) 県民参加型事業である「みやぎ県民大学」については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい動画配信(YouTube)による講座とし、開催した。 障害者サービスは相応の知識・技術が求められる分野でもあることから、ニーズに応じた専門知識(点字・音訳など)を持った職員が担当し、内容の改善に努めた。 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> 講座など参加者を集める形態の中には、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、申込みがありながら急遽中止となったものもあった。
----	---

対応方針	<ul style="list-style-type: none"> 講座等については、これまでの新型コロナウイルス感染症対策で得たノウハウ等も踏まえ、適切な運営・開催形態について検討しながら実施する。
------	--

協議会委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 学校における調べ学習はますます重要になってきている中で、図書館として、インターネットとは違った長所を生かして、学校と連携するとよいのではないかと。
---------	---

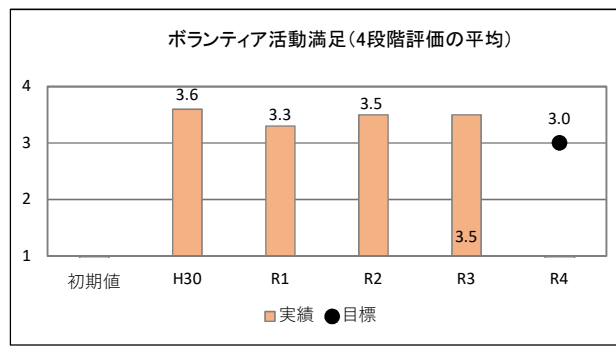
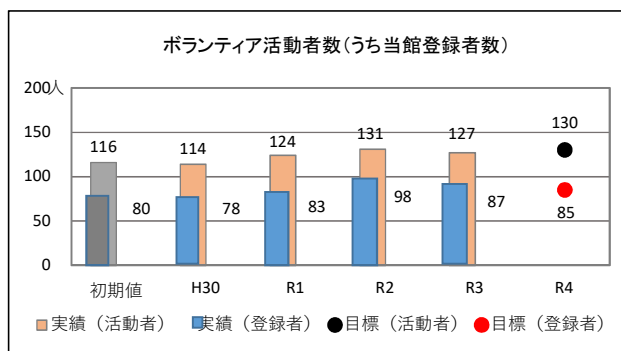
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	6 ボランティアの活躍の場を創り、その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに、ボランティア活動を支援します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア登録により、書架整理・展示室等案内・音訳・蔵書点検等の活動分野において、職員やボランティア同士のコミュニケーションを図りながら活動を支援します。 ・ ボランティア活動に必要な基礎的知識や技能を習得するための研修体制を充実させます。 ・ 当館ボランティア登録者以外についても、充実したボランティア活動ができるよう、生涯学習の一環として活動の場を提供します。
------	---

目標指標					
	初期値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和3年度)	達成率	
ボランティア活動者数 (うち当館登録者数)	116人 [80人]	130人 [85人]	127人 [87人]	97.7% [102.4%]	【フロー型】
ボランティア活動満足 (4段階評価の平均)	—	3.0	3.5	116.7%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
ボランティア活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書架整理・展示室等案内・音訳・協力貸出搬送・蔵書点検等の各分野において、週1回2時間程度のボランティア活動の場を提供するとともに、活動のサポートを行った。 ・ よみきかせ活動については、今年度は6団体33人の登録があり、子ども図書室にて活動した。
ボランティア講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体研修会として、「緊急時の対応」「宮城県図書館の概要」の2回を実施したほか、活動分野毎にサービス内容や技能習得のための養成講座や専門講座を31回実施し、延べ275人の参加があった。
よみきかせ等研修会 (再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの読書環境を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目指し、おはなし会を行う際に必要なよみきかせ等の基礎知識と技能の修得を図るため、年間9回の開催で計画したが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置により、3回中止とした。全6回の実施に際しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら実施し、延べ98名が受講した。

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、集まることにためらいがある方もいる。しかし、この状況下でもボランティアの意欲は高く、感染拡大防止に配慮しながら順調に活動している。 よみきかせ等研修会については、今年度年間9回開催で計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により3回中止とした。実施した6回の受講者は、98名となったが、受講者からは高い満足度が寄せられた。(再掲) 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 県立図書館として音訳の提供等、専門性の高い活動が、求められているが、職員を含め必ずしも担い手が十分とは言えない。 県立図書館として、視覚障害者等に対し資料やサービスの量的拡充、質の向上が求められるが、現状では十分に答えきれない面がある。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 音訳等のサービスについて、サピエや国立国会図書館(NDL)の視覚障害者等用データ送信サービスといった、他館とのネットワークを活用した活動等も含めて検討する。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

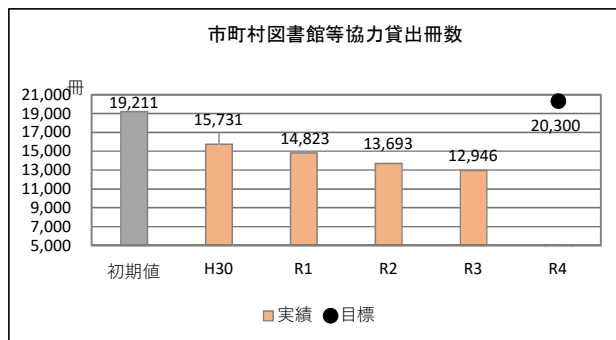
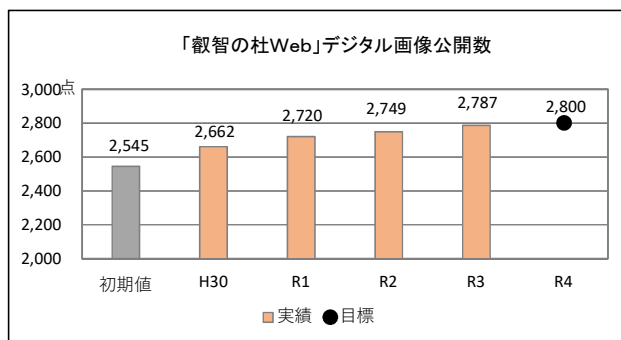
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	7 公平かつ長期的な視点に立ち、県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに、適正に整理、保存し、有効活用を図ります。
--------	---

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 資料について県民のニーズを把握し、公平性、有効性を考慮し、特定の分野に偏ることなく、可能な限り幅広く収集するとともに、資料の更新・整備を行います。 関係機関等と連携しながら、当館所蔵資料を活用した展示等を行い、広く県民に公開します。 資料が利用者に活用される情報資源となるよう、文献リスト等の作成により付加価値の高い情報発信に取り組みます。 地域の課題等に対応した特集コーナーや展示により、資料の有効活用に取り組みます。 16ミリ映画フィルム等の点検、整備、適切な保存に努め、その利活用を図ります。
------	---

目標指標				
	初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和3年度）	達成率
「叡智の杜Web」デジタル画像公開数 (初期値との差)	2,545点	2,800点	2,787点	94.9% 【ストック型】
市町村図書館等協力貸出冊数（再掲）	19,211冊	20,300冊	12,946冊	63.8% 【フロー型】



構成事業の実績		
事業名	実績	
図書館資料整備事業	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の幅広いニーズに応じられるよう資料の整備を行った。 蔵書のバランスを見ながら、不足又は休刊が生じた分野の逐次刊行物については新規購読誌を検討するなど計画的に収集を行った。また、宮城県関連の新聞だけでなく、全国紙も含めてマイクロフィルム資料の収集及び作成を行い、未収集部分については計画的な遡及収集も行った。 郷土資料に関しては、資料の種類を問わず、幅広く収集を行うとともに、未所蔵の資料が見つかった場合は、購入や発行元へ寄贈の依頼を行い、積極的に収集した。 	
常設展・企画展開催	<ul style="list-style-type: none"> 常設展「本と人との文化史」の他、これまでに企画展「東日本大震災文庫展XI あの日はいつもおりのはずだった(2/27～5/30)」, 「みやぎとオリンピック 1964→2020(6/5～8/29)」, 「視聴機器今昔ものがたり(9/4～11/9)」, 「災害と公文書—地震・津波と宮城県—(12/4～2/27)」を開催した。現在は「東日本大震災文庫展XII『震災伝承：つたえつづけてゆく記憶』(3/5～5/29)」を開催している。3月末時点で25,327人の来客があった。 	
協力業務運営事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 県内市町村図書館等への協力貸出を12,946冊行い、当館資料の活用を図った。 	
資料展示	<ul style="list-style-type: none"> 所蔵している資料を用いて、各フロアで季節や社会の動向に応じた様々なテーマの展示（ミニ展示）を行った。 	

自己評価	概ね順調
------	------

理由

- 企画展については、予定どおり「東日本大震災文庫展XI あの日はいつもとどおりのはずだった(2/27～5/30)」、「みやぎとオリンピック 1964→2020(6/5～8/29)」、「視聴機器今昔ものがたり(9/4～11/9)」、「災害と公文書—地震・津波と宮城県—(12/4～2/27)」、「東日本大震災文庫展XII『震災伝承:つたえつづけてゆく記憶』(3/5～5/29)」を展示しており、各種広報媒体を活用することにより県民に広く周知を図った。
- 資料整備にあたっては、県民の課題解決に必要とされる資料整備に努めた。
- 「叡智の杜Web」について、資料の公開数の増加とともに資料へのアクセス数も順調に伸びている。
- 協力貸出冊数についても、新型コロナウイルス感染症の影響もあり減少傾向が続いている。令和3年度については前年度（貸出冊数13,693冊）より747冊減少した。（再掲）

以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。

課 題

- 企画展や様々なテーマによる特集コーナーについては、県図書館の特色を生かしつつ、県民に対して魅力ある展示内容としていく必要がある。

対応方針

- 企画展については、年間計画で各班が担当することにより、それぞれの専門性を生かし特色ある内容にする。とともに、特集コーナーについては季節やイベント、地域の課題など、利用者への関心を高めニーズに応えるものになるよう努める。

協議会委員意見

- 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

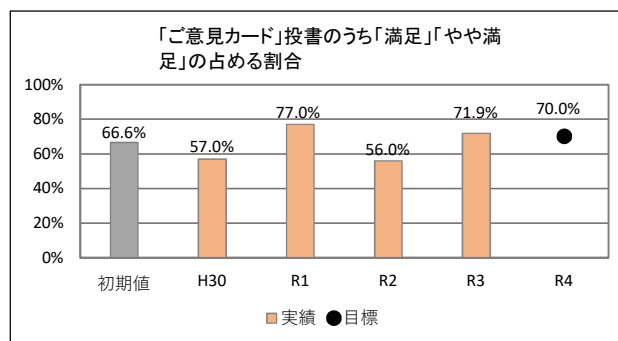
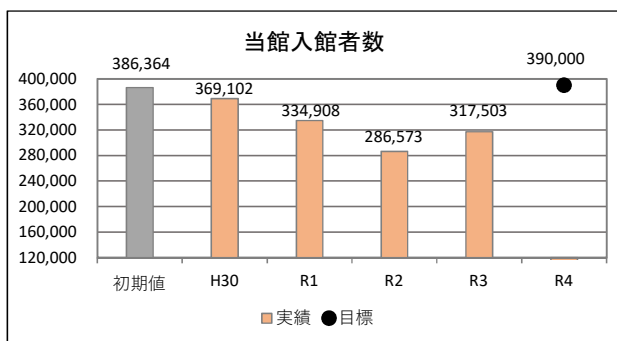
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	8 安全安心な施設の維持に努め、県民が利用しやすい環境整備を推進します。
--------	--------------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 当館の施設設備を適切に維持管理し、県民が快適な環境のもとで利用できるようにします。また、施設の老朽化や書庫の狭小化対策について、10カ年の整備計画を立てるとともに、大規模な増改築を伴う改修等、中長期的な環境整備についても検討していきます。 職員のサービス向上と利用者のマナーアップ推進を図り、キャンペーン活動を実施し、利用しやすい環境づくりを行います。 「ご意見カード」や利用者から寄せられた意見をもとに、適宜、改善や考慮すべき事項の見直しを行います。
------	--

目標指標					
		初期値（平成28年度）	目標値（令和4年度）	実績値（令和3年度）	達成率
当館入館者数		386,364人	390,000人	317,503人	81.4% 【フロー型】
「ご意見カード」投書のうち「満足」「だいたい満足」の占める割合		66.6%	70.0%	71.9%	102.7% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館管理運営事業 (施設管理に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> 3階テラスの排水設備が石灰による狭小化と1階エントランス及び3階テラスのガラスサッシからの漏水について、令和2年度の実施設計に基づき、改修工事を実施した。 経年劣化による電源基板不具合のため、稼働不能となった空調設備の中央監視装置更新工事を令和2年度の実施設計に基づき実施した。 令和3年2月に発生した福島県沖地震による、建物外壁、内壁及び天井等のひび割れ等の復旧工事及び電動書架、給水管等の修繕を実施した。 火災発生時における重要文化財(美術工芸品)等の保全のため設置している、超高感度煙検知システム、非常放送スピーカー及び自家発電設備等の消防設備の改修工事に係る設計業務委託を実施した(令和4年度工事実施)。
サービス向上マナーアップキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> 読書週間(10/27～11/9)に合わせたイベントとして開催した。県内の公立図書館等にも情報提供し、作成したポスターについても、活用を促した。特に今回のポスターについては、利用者に注意事項を呼びかける(NGワード)に代えて、ルールを守って利用していただいている事への感謝(サンクスワード)を表したことで、好評を得た。また、各班の展示については、利用者に訴えるものがあり、親子での会話に繋がっていた様子も覗えた。

自己評価	概ね順調
------	------

理 由

- ・ 老朽化した施設・設備の更新・改修において、施設設備に係る維持修繕工事計画に基づき計画的に実施するとともに、新たに発生したものについては、主務課と情報共有を図りながら対応を図った。
- ・ ご意見カードの回答は、概ね1週間程度で掲示している。当館の運営にとっても、気づかされることも多くある。
- ・ サービス向上マナーアップキャンペーンは、利用者に訴えかけると共に職員の様々な“気づき”にも繋がっており、利用者対応の向上に役立った。
- ・ 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。

課 題

- ・ 開設以来24年が経過していることから、施設及び設備の老朽化については、長期的・計画的に対応していく必要がある。
- ・ 老朽化や相次ぐ地震により新たな修繕箇所・更新箇所が発生している。

対応方針

- ・ 施設整備の長寿命化に向け維持修繕工事計画を策定しており、定期的に見直しを図りながら、施設・設備の適正な改修・更新を実施していく。
- ・ 予算確保に向け、関係課と情報共有を図りながら、迅速かつ適切に実施していく。
- ・ 施設及び設備の日常的・定例的な点検を通して、修繕箇所・更新箇所を把握していく。

協議会委員意見

- ・ 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

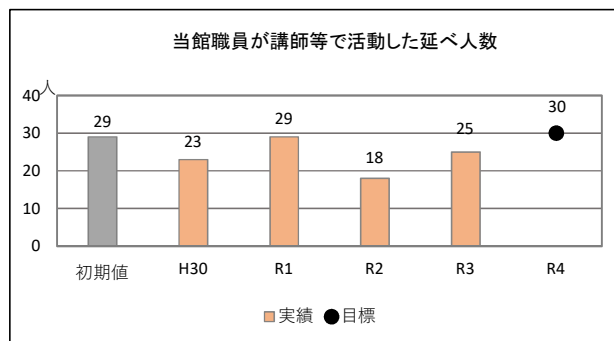
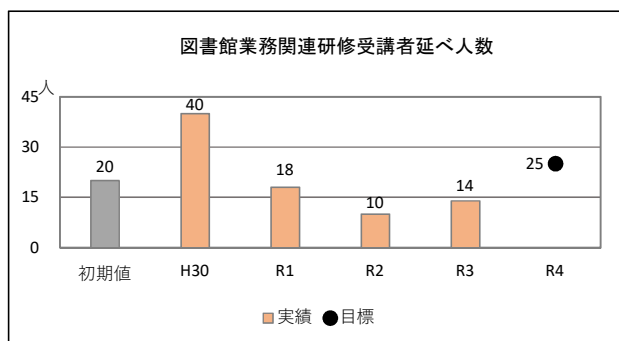
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	9 組織運営の強化に取り組むとともに、創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 図書館サービスのさらなる充実を目的として、各種研修会等に積極的に参加し、職員の資質・能力向上に努めます。 専門職員の採用も含めた人材の確保と計画的なジョブ・ローテーションによりさまざまな業務を経験・習得させるとともに、他の組織・機関への派遣研修や人事交流等も検討し、より高度な人材の育成に努めていきます。
------	---

目標指標					
	初期値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和3年度)	達成率	
図書館業務関連研修受講者延べ人数	20人	25人	14人	56.0%	【フロー型】
当館職員が講師等で活動した延べ人数	29人	30人	25人	83.3%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館管理運営事業 (組織運営及び人材育成に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> 国立国会図書館と実務研修員の相互交流を実施した。 各種研修会や会議等に職員を派遣した。(コロナ禍により一部の研修が中止)
公共図書館等職員研修 (再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を遠隔研修の形態で4回実施し、知識と技能の習得を図った。受講者数については、延べ791人の参加があった。 参加者アンケートでは、4段階評価で平均3.7の高い評価を得た。
出前講座 (再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等業務の専門的知識習得と技術力向上を支援するため、7市町の研修会等へ当館職員を8回派遣した(その他新型コロナウイルス感染症の影響により紙上開催となった1町(1回分)に対し、作成した資料を提供した。)

自己評価	概ね順調
------	------

理由

- 国立国会図書館と実務研修員の相互交流を実施した。
- コロナ禍により令和元年度から令和3年度まで受講者及び講師等で活動した延べ人数は目標値に達しなかったが、脆弱なインターネット設備の環境下でオンラインを含め参加が可能な限り各種研修等の受講を勧めるとともに講師派遣を行い、人材育成に努めた。
- 公共図書館等職員研修については、新型コロナウイルス感染症の影響で集合形式での研修会開催が難しい状況にあり、動画配信による遠隔研修の形式によって実施している。動画配信とすることで、より多くの参加者が都合の良い時に視聴できるというメリットを最大限生かして、大幅な参加者数の増を図ることができた。公共図書館等職員研修会参加者満足度も、4段階評価で平均3.7の高い評価を得た。(再掲)
- 初任者層を対象とした研修への参加率は、遠隔研修のメリットを十分生かすことができ、大幅な参加増となっている。(再掲)
- 出前講座については、例年どおりの実績であり、希望館のニーズに沿った講座を実施している。(再掲)
- 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。

課題

- オンラインを活用した研修会が増えているため、職員が受講又は講師等で活動しやすいようにインターネット回線の増強など通信環境を整えることが重要である。

対応方針

- 新型コロナウイルス感染症の感染状況によるが、現地参加型の研修会の情報提供及びオンライン参加が可能な研修等について職員への情報提供に努めるとともに、積極的な受講又は講師派遣により、さらなる人材育成に努める。

協議会委員意見

- 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

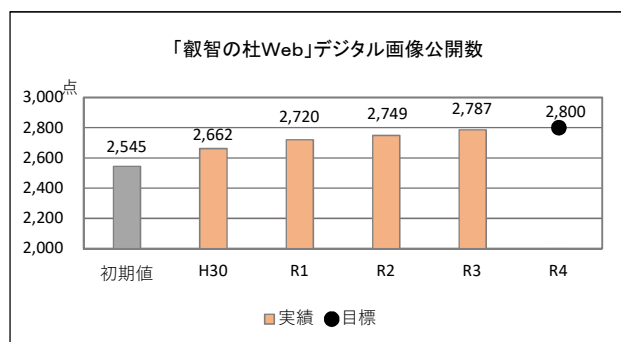
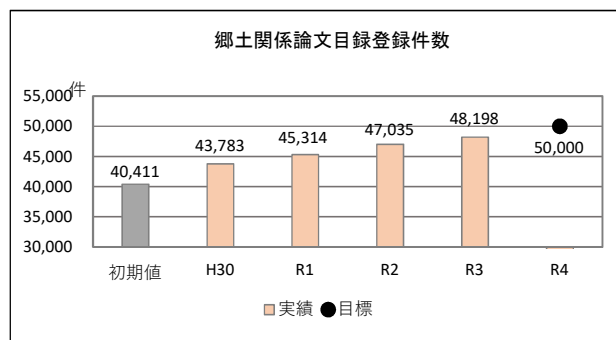
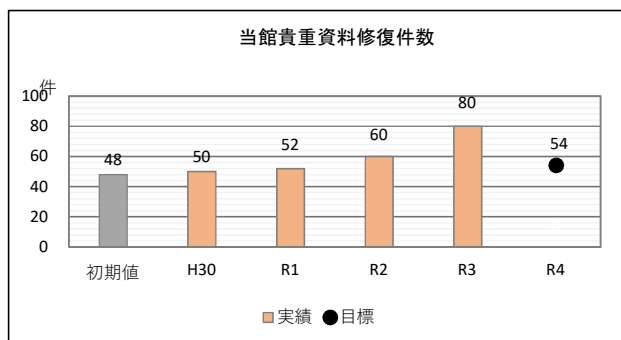
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	10 宮城の郷土資料を後世に伝えるため、収集・保存や修復を行うとともに、利活用の促進を図ります。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県に関する資料は、網羅的な収集に努めます。 必要な資料の修復や複製資料(デジタルデータ)の作製等を行い、適切な長期保存と活用に努めます。 「叡智の杜Web」で文献情報や貴重資料のデータ画像を公開し、利活用を促進します。
------	---

目標指標	初期値(平成28年度)	目標値(令和4年度)	実績値(令和3年度)	達成率
当館貴重資料修復件数 (初期値との差)	48件	54件	80件	533.3% 【ストック型】
郷土関係論文目録登録件数 (初期値との差)	40,411件	50,000件	48,198件	81.2% 【ストック型】
「叡智の杜Web」デジタル画像公開数 (初期値との差)(再掲)	2,545点	2,800点	2,787点	94.9% 【ストック型】



構成事業の実績	事業名	実績
図書館貴重資料保存修復事業		<ul style="list-style-type: none"> 計画どおり、「陸奥国仙台領元禄国絵図関係資料」のうち、「陸奥国仙台領際絵図陸奥国南部領之方扣」など絵図2点、文書16点を修理した。また、県指定文化財2点の修理も並行して行った。修理後は、デジタル撮影を行い、デジタル画像は当館ホームページ上の「叡智の杜Web」で公開した。
図書館和古書複製作製事業		<ul style="list-style-type: none"> 計画どおり、「皇国地誌」の附図の陸前国本吉郡のデジタル撮影を行って、デジタル画像を作成した。作成後は当館ホームページ上の「叡智の杜Web」で公開した。

事業名	実績
図書館資料整備事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の幅広いニーズに応じられるよう資料の整備を行った。 蔵書のバランスを見ながら、不足又は休刊が生じた分野の逐次刊行物については新規購読誌を検討するなど計画的に収集を行った。また、宮城県関連の新聞だけでなく、全国紙も含めてマイクロフィルム資料の収集及び作成を行い、未収集部分については計画的な遡及収集も行った。 郷土資料に関しては、資料の種類を問わず、幅広く収集を行うとともに、未所蔵の資料が見つかった場合は、購入や発行元へ寄贈の依頼を行い、積極的に収集した。

自己評価	順調
------	----

理由

- 構成事業について、計画通り事業が進行している。併せて、県民大学等の機会を捉え、貴重資料の利活用に努めた。
- 資料整備にあたっては、県民の課題解決に必要とされる資料整備に努めた。（再掲）
- 以上のことから、目標指標の達成度状況は順調に積み上がっており、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「順調」と判断する。

課題

<ul style="list-style-type: none"> 貴重資料保存修復及び和古書複製の件数は計画どおりであるが、貴重資料の修復については、長期的に事業を継続できるよう、引き続き関係課の協力が必要である。 和古書複製製作事業については、未撮影の資料には劣化が進んでいるものや希少な資料等も含まれている。資料的価値が損なわれないよう、速やかに進める必要がある。
--

対応方針

<ul style="list-style-type: none"> 貴重資料の適切な修復・保存方法について、国の補助事業を活用しながら事業を推進するとともに、関係課の理解と協力を得て長期的・計画的に取り組む。 デジタル撮影による複製作成については、計画的に進めるとともに関係機関の協力を得ながらデジタル化を加速できる機会を捉えて、撮影点数及び画像公開数を増加させるよう努める。 展示等での利活用に努め、貴重資料の保存修復の重要性のPRを継続する。

協議会委員意見

<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 デジタル撮影による複製作成において、コロナ禍においてペースを保つだけでは不十分であるので、加速させてほしい。 複製事業については、危機感を反映し、加速するくらいが望ましいのではないか。

第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和3年度
--------	-------

施策の方向性	1 1 東日本大震災の記録を収集し、永く後世に引き継ぐための取組を行います。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 震災に関する貴重な記録が失われる前に、県全域を対象として震災関係資料を収集することが求められていることから、「東日本大震災文庫」のより一層の充実を図り、購入可能な資料にとどまらず、非売品や希少性の高い資料を含めた幅広く網羅的な資料の収集に努めます。 震災関連資料を防災・減災に生かすために県内全市町村と連携・協力して構築した「東日本大震災アーカイブ宮城」の管理及び運用を行います。また、連携市町村と設置した「東日本大震災アーカイブ宮城管理運営協議会」と協力しながら、利活用の促進及び公開コンテンツの充実を図ります。 被災した市町村図書館等に対し、中長期的な将来を見据えた運営に配慮した支援を行います。また、震災に関する情報交換や経験共有のために研修会等を通じて、震災から得られた各図書館の経験知を他の図書館の業務に役立ててもらうなど、県全域の市町村図書館等の復興に向けた取組に対して支援を行います。
------	---

目標指標																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期値 (平成28年度)</th> <th>目標値 (令和4年度)</th> <th>実績値 (令和3年度)</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「東日本大震災文庫」資料収集点 (初期値との差)</td> <td>9,111点</td> <td>11,000点</td> <td>11,945点</td> <td>150.0% 【ストック型】</td> </tr> <tr> <td>「東日本大震災アーカイブ宮城」年間アクセス数</td> <td>111,528件</td> <td>120,000件</td> <td>335,553件</td> <td>279.6% 【フロー型】</td> </tr> </tbody> </table>		初期値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和3年度)	達成率	「東日本大震災文庫」資料収集点 (初期値との差)	9,111点	11,000点	11,945点	150.0% 【ストック型】	「東日本大震災アーカイブ宮城」年間アクセス数	111,528件	120,000件	335,553件	279.6% 【フロー型】																											
	初期値 (平成28年度)	目標値 (令和4年度)	実績値 (令和3年度)	達成率																																							
「東日本大震災文庫」資料収集点 (初期値との差)	9,111点	11,000点	11,945点	150.0% 【ストック型】																																							
「東日本大震災アーカイブ宮城」年間アクセス数	111,528件	120,000件	335,553件	279.6% 【フロー型】																																							
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="140 965 759 1301"> <p>「東日本大震災文庫」資料収集点数</p> <table border="1"> <caption>「東日本大震災文庫」資料収集点数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期値</td> <td>9,111</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>10,025</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>10,394</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>11,396</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>11,945</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>-</td> <td>11,000</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="815 965 1434 1301"> <p>「東日本大震災アーカイブ宮城」年間アクセス数</p> <table border="1"> <caption>「東日本大震災アーカイブ宮城」年間アクセス数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期値</td> <td>111,528</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>126,813</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>159,486</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>188,470</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>335,553</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>-</td> <td>120,000</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>	年度	実績	目標	初期値	9,111	-	H30	10,025	-	R1	10,394	-	R2	11,396	-	R3	11,945	-	R4	-	11,000	年度	実績	目標	初期値	111,528	-	H30	126,813	-	R1	159,486	-	R2	188,470	-	R3	335,553	-	R4	-	120,000
年度	実績	目標																																									
初期値	9,111	-																																									
H30	10,025	-																																									
R1	10,394	-																																									
R2	11,396	-																																									
R3	11,945	-																																									
R4	-	11,000																																									
年度	実績	目標																																									
初期値	111,528	-																																									
H30	126,813	-																																									
R1	159,486	-																																									
R2	188,470	-																																									
R3	335,553	-																																									
R4	-	120,000																																									

構成事業の実績	
事業名	実績
東日本大震災資料の収集	<ul style="list-style-type: none"> 購入資料の収集は東日本大震災から年数が経つにつれ減少傾向だが、寄贈資料の収集や整理が進んだため、収集数としては平成28年度から2,834点増の11,945点(うち図書6,196冊、雑誌1,958冊、視聴覚178点、チラシ3,586点、新聞27紙)増加した。
東日本大震災関連資料保存継承・公開事業	<ul style="list-style-type: none"> 市町村向けにアーカイブ宮城の研修動画を作成し、8月末に配付した。 第23回図書館総合展(オンライン開催11/1~11/30)において、東日本大震災文庫、アーカイブ宮城を紹介した。 仙台防災未来フォーラム(3/5 於:仙台国際センター)でブースを出展し、広報活動を行った。
被災した市町村図書館等の復興支援(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 第23回図書館総合展(オンライン開催, 11/1 ~11/30)において、被災地図書館の復興状況を紹介した。全70ブース出展中18位にあたる575回のページビューがあった。
ハーバード大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> 東北大学災害科学国際研究所が研究の一環として取り組む、東日本大震災アーカイブ宮城の英語化を進めるために、資料情報(メタデータ)の見直しや修正を行っている。

自己評価	順調
------	----

理由

- ・ 東日本大震災文庫の資料収集については、購入・寄贈資料の整理が進んだ。
- ・ 「東日本大震災アーカイブ宮城」についても未公開資料・資料情報(メタデータ)の整理が進み、前年度(188,470件)と比較するとアクセス数が増加傾向にある。
- ・ 以上のことから、目標指標の達成状況及び実績を勘案し、「順調」とした。

課題

- ・ 東日本大震災文庫の資料収集及び「東日本大震災アーカイブ宮城」のコンテンツ収集については、時間の経過とともに困難な状況となっている。
- ・ 未公開となっている資料について、権利許諾の有無を確認しながら整理していく必要がある。

対応方針

- ・ 東日本大震災文庫及び「東日本大震災アーカイブ宮城」については、震災関連資料に関する情報入手に努め関係機関と連携しながら収集していく。また、権利許諾については引き続き確認作業を行っていく。

協議会委員意見

- ・ 自己評価の理由が十分であり、「順調」とした自己評価は妥当であると判断される。
- ・ 資料の充実のうち、東日本大震災・郷土資料は特に重要だと思う。1階のエントランスに展示されている津波の高さを示した表示は、実際の津波の高さが実感できて素晴らしい。

4 令和3年度の点検及び評価の総括

第3期宮城県図書館振興基本計画に基づく、令和3年度の取組を点検し、当該計画で設定した11の施策の方向性ごとにその進捗状況の評価しました。数値的判断として設定した各目標指数に対する達成率と、施策毎の構成事業の取組実績を元に自己評価した結果、「順調」が3件、「概ね順調」が6件、「やや遅れている」が2件、「遅れている」と判断したものは0件でした。

この評価に係る外部評価として、宮城県図書館協議会に諮問することとしており、自己評価の内容やその判断に至った理由、課題などを報告し、審議の結果、自己評価については妥当との判断をいただきました。

振興計画策定から4年が経過し、今後の推進に当たっては、自己評価と宮城県図書館協議会の意見などを踏まえ、評価する中で整理された課題については、引き続き改善に努めるとともに、目標指標等については随時見直しを実施しながら最適なものになるよう努め、目的を達成した事業についても更に一歩進んだ取組となるよう見直しを行い、これからも市町村図書館等との連携・協力関係の深化を図り、当館を中核とした図書館ネットワーク体制の充実と、全県的な図書館サービスのさらなる質的向上に努めます。